

『増補改訂 本願寺史』第4巻刊行にあたって（第5回）

第四章 法式と法要 その概要

◎第四章の構成

本願寺史料研究所が編纂し、今年3月に刊行しました『増補改訂 本願寺史』第4巻の第四章は、アジア・太平洋戦争敗戦後の法式関係の変遷とその関連事業について記述しました。この章の内容は次のような構成となっています。

- 一 奉仕局・法務部・式務部および勤式指導所
- 二 法式の変遷と勤行集などの発行
- 三 蓮如宗主四五〇回遠忌法要
- 四 宗祖七〇〇回大遠忌法要
- 五 宗祖御誕生八〇〇年・立教開宗

七五〇年記念法要

六 主な法要

- 七 蓮如宗主五〇〇回遠忌法要
- 八 建物・文化財

▼法式関係の改革

1947（昭和22）年4月、宗政総局に設置された奉仕局・文書局・教学局・内務局の4局のうち、奉仕局が宗門における法要および儀式に関する事柄に当たり、宗門が直接修行する法要・儀式の実務を掌ることとされました。これを受けて奉仕局の職員の名称と員数及び職掌が

定められ、同時に勤式指導所が設置されました。そして、翌年4月には法要儀式規程を施行し、本願寺の法要を19の恒例法要と6の臨時法要に分けておこなうことが規定されました。

その後の機構改革によって、1949（昭和24）年に法務部、1951（昭和26）年に法務部・本願部、1961（昭和36）年に法式局、1976（昭和51）年に式務部・本願部、1988（昭和63）年に式務参拝局・本願局へと変遷しました。

また、戦後の大きな法要に際して制定される法要の作法と勤行集の発行についてもたどっています。

▼戦後の法要

《蓮如宗主四五〇回遠忌法要》

戦後に修行された最初の大きな法要としては、1948（昭和23）年4月10日から17日にかけて修行された蓮如宗主四五〇回遠忌法要です。

これは、敗戦直後の復興が進められ

うとしているなか、全国的に経済事情が非常に厳しい状況のもとでの法要となりました。本法要の期間中には、社会事業従事者大会をはじめ布教使大会、龍谷布教連盟、仏教青年大会の4つの記念大会が開催され、各教区ごとに特別記念事業が企画されました。

蓮如宗主四五〇回遠忌を契機として、戦後の混迷のなかで、蓮如宗主の1宗再興の事績を仰ぎ、時代の要請にこたえて伝道の強化徹底を図る目的として、蓮如上人讃仰記念伝道が始められました。

《宗祖七〇〇回大遠忌法要》

また、当初1961（昭和36）年3月25日から2期19日間での修行として計画された宗祖七〇〇回大遠忌法要は、1954（昭和29）年1月16日には勝如宗主による待ち受けの消息が発表されて本格的に大遠忌態勢がスタートしました。大遠忌推進と教団の現況把握のために、同年3月から1960（昭和35）年12月にかけて、勝如宗主が全国の組巡教を実施

しました。それと並行して、事務体制の整備・大遠忌の予算化・各研修会の実施・全国門徒代表者大会の開催などによって、大遠忌への気運高揚が図られました。

この大遠忌では、新しい時代に即した技術などを取り入れることで門徒以外の人びとも感心をもてるようにと、伝道車の活用・映画「親鸞」の制作・雑誌『アサヒグラフ』での特集記事・堂本印象原画によるポスター制作・本願寺展の開催などが進められ、法要の様子は視聴覚伝道としてテレビ中継が実施されました。

さらに、門信徒に対しては計画的な団体参拝も進められたこともあり、参拝希望者の増加を受けて、法要期日を延長して第1期を3月10日から21日まで、第2期を4月4日から16日までとして、大々的に修行されました。

《宗祖御誕生八〇〇年・立教開宗七五〇年慶讃法要》

1973（昭和48）年3月から3期20日間修行されたのが、宗祖御誕生八〇〇

年・立教開宗七五〇年慶讃法要です。この法要では、慶讃委員会とともに寺院振興対策委員会・教学振興委員会も設置され、宗門の現状を把握して次世代につなげる施策が検討されました。また、法要の気運高揚のため「慶讃ともし火運動」が全国で行われ、団体参拝では大型バス・船舶・航空機・鉄道を利用し、国内から19万人近くの参拝者と、海外から約12000人の参拝者がありました。

《蓮如宗主五〇〇回遠忌法要》

さらに、1998（平成10）3月から10期100日間にわたって修行された蓮如宗主五〇〇回遠忌法要についても記述しました。この法要では、「環境」「家族」という2つのテーマを設けて全国キャンペーンを展開し、蓮如宗主の事績を「変革（イノベーション）」と捉えて、若者の宗教離れの現状を背景に、次世代に教えを伝えるための若年層をターゲットとして取り組まれました。

《主な法要》

なお、この他にも、1991（平成3）年に修行された顕如宗主四〇〇回忌・寺基京都移転四〇〇年法要や、2000（平成12）年4月に修行された覚如宗主六五〇回忌法要などについても紹介しました。

▼建物・文化財

各法要にともなう記念事業として、御影堂・阿弥陀堂などの文化財修復や、施設の整備がおこなわれました。

宗祖七五〇回大遠忌に向けて、1999（平成11）年6月から2009（平成21）年7月にかけて、御影堂の平成の大修復が実施されました。この修復工事では、御影堂周辺の文化財や施設への影響を考慮して、素屋根を東側から支える片持ち式鉄骨トラス構造が採用されるとともに、環境へ配慮して柱トラスを箱形断面として中に水を注入するといった新たな技法も取り入れられました。

この他にも、1981（昭和56）から

1984（昭和59）年に実施された阿弥陀堂の修復、1957（昭和32）年から1959（昭和34）年に実施された書院の修復をはじめ、唐門・飛雲閣の修復についても記述しました。

また、顕如宗主四〇〇回忌法要にあわせた北境内地の拡張と、蓮如上人五〇〇回遠忌の記念事業としての開法会館・参拝会館の建設もおこなわれました。

さらに、京都市の都市計画による大谷本廟南側への道路（国道1号線）敷設にともなう本廟の整備から、無量寿堂・本廟会館・第二無量寿堂の建設についても整理して記述をしました。

私たちは、宗祖をはじめ各歴代宗主の回忌法要を通して、次代に向け境内地を整備し、個々の信心を再確認していくこととなります。宗門が歩んできた歴史を振り返るとともに、法式と法要の意義を改めてご理解いただければと思います。

本願寺史料研究所



『増補改訂 本願寺史』第4巻

8800円（税込・送料別）

A5判、908ページ

※ご注文は本願寺出版社まで